

## 熱測定討論会 50 周年・日本熱測定学会設立 40 周年記念式典・祝賀会

2014 年 9 月 29 日（月）午後 13:30 より、大阪大学豊中キャンパス内の大阪大学会館（豊中市待兼山町）において、熱測定討論会 50 周年と熱測定学会設立 40 周年の記念式典が行われました。式典は日本熱測定学会の主催ですが、会場や運営に関する実質的な準備は討論会の実行委員会組織が進めることになり、センターを中心とした委員会でお世話をしました。記念討論会の第二日目の午後のプログラムに組み込むかたちで、大阪大学会館を使えないかと打診したところ、学会幹事会にも賛同頂き、センターとの共同開催のかたちで使うことで大学からも承認頂けることになりました。東島 清理事・副学長、篠原 厚研究科長にも来賓として参加を承諾頂くことができ、理学研究科と附属構造熱科学研究センターのイベントとしても位置づけることができました。元センター長の菅 宏先生、徂徠道夫先生、さらに筑波大学に移られた齋藤一弥先生が式典でご講演されました。熱測定学会は、故関 集三先生が日本における熱測定の活性化を目的に、1965 年に最初に阪大で開催された学会です。設立から 40 年を迎えた日本熱測定学会も、この討論会活動を行う母体組織として、やはり関先生が中心メンバーの一人として開設に尽力されました。阪大のセンターにとっても、設立以来、欠かすことができない研究活動の場になっています。半世紀の大きな節目を祝うとともに、これまでの熱測定学会の活動、討論会の活動を振り返りながら将来へ向けて展望をはかる式典を豊中キャンパスで行えたことは、センターの学会に対する感謝の気持ちを示す非常に良い機会となりました。9 月末の忙しい時期でしたが、天候にも恵まれ式典には 200 名近い参加者がありました。

式典のプログラムは二部構成で生まれ、第一部は主に記念講演会を中心に進められ、休憩時間をはさみ第二部は記念行事が行われました。第一部では、センター長の中澤が司会をつとめ、吉田実行委員長挨拶のあと理事・副学長の東島先生に大学を代表してご挨拶を頂きました。その後、徂徠道夫元センター長（1999 年－2001 年 学会会長）が「討論会 50 周年を顧みて」というタイトルで 50 分間の特別講演をされました。第 1 回討論会（大阪大学松下会館）の開催に至るまでの時代背景から、熱測定装置の開発やカロリメトリー、熱分析データの発表や議論の場をつくりたいという関先生をはじめとする設立に関わった先生方の熱い思いと、立ち上げ期、発展期での先輩方の並々ならぬ努力についてもお話がありました。リベラルな討論をする雰囲気や大事にする気風が当初からあり、それを基礎に常に新しいものを取り入れて発展してきたとのお話は、異分野から入って来ても、いろいろ率直に質問ができる学会の良い雰囲気がある理由であることが良くわかりました。次いで、齋藤一弥先生（元センター助

教授) から将来へむけての学術講演がありました。物質科学の本質をみるためにいかにエントロピーが重要であるか、分子分光などではみえない分子科学としての熱測定の重要性が強調され、なるほどと思うことが随所にあります。構造熱科学研究の目指すところも同じ方向性であることは間違いありません。特別講演は、東京工業大学理工学研究科の森川淳子先生からもあり、熱測定によるイメージング開発の魅力とその応用への様々な可能性が指摘されました。画期的な装置開発のブレークスルーがいかに将来を切り拓くかを示している講演でした。

第二部は、吉田博久実行委員長(首都大学)の司会のもと、木村隆良日本熱測定学会会長の挨拶からはじまり、日本化学会の川島信之常務理事、日本熱物性学会の吉田篤正会長、熱測定振興会の山内 繁会長、IUPAC を代表した名古屋大の巽 和行先生、CalCon から B. F. Woodfield 先生、中国化学院から Li-Xian Sun 先生の代理の Fen Xu 先生らのご来賓挨拶がありました。川島理事と巽先生は大阪大学のご出身ということもあり、関先生のご貢献と熱測定学会の化学研究、物理化学分野における重要な役割をお話し頂きました。時流に流されることなく、重要なことを責任をもっておこなうことが基礎研究、学術研究、特に熱科学研究にとっては失ってはいけない柱としないといけないことを、あらためて認識しました。第二部の後半は、「カロリーメトリーの立場から」、「熱分析の立場から」、「企業の立場から」とそれぞれの観点から菅先生、八田先生、石切山先生による記念講演となり、元センター長の菅先生は、50年の学会の発展の思い出と、学会がこれまで歩んできた努力についてお話されました。センターや理学研究科化学専攻の熱測定に関する活動が学会の発展に尽くしてきたことはスライドの中にも随所に感ずることができました。最後に猿山靖夫前会長から閉会の挨拶があり、次の50年に向けてより一層の発展にむけて進んで行くことを祈念して、閉会となりました。

記念祝賀パーティーは夕刻から千里阪急ホテルに移して行われました。進行はセンターの中野元裕教授、宮崎裕司准教授が担当しました、篠原理学研究科長にも理学研究科を代表してスピーチを頂くとともに、長く熱測定学会に参加されていた先生方に思い出をお話頂きました。式典、祝賀パーティーの準備では何日も前から物性物理化学研究室の山下助教が走り回ってくれました。できるだけ大阪らしさも出したいので、地元の箕面ビールの手配や、呉春、秋鹿などのお酒の買い出しをはじめ、何度も千里阪急ホテルと交渉してくれ、当日の開催に繋がりました。50周年の記念ケーキの写真は学会の事務局にも保存していただいています。懇親会後半には、優秀ポスター賞の表彰が行われ、待兼山の名称にちなんで、「待兼山賞」として首都大学東京と広島大学の2件のグループが表彰をうけました。今回、裏方に回ってくれた研究室の学生の皆さんも

同様に、60回の記念討論会では是非とも中心になって活動して欲しいと思います。

式典の開催とその準備でいろいろ知ることで、熱測定討論会、日本熱測定学会の歩んできた50年がどのようなものであったか、その中でセンターがどのように役割を果たしてきたか良くわかりました。カロリメトリーの分野における装置の開発とサイエンスを両輪として進める研究で、次の50年も違った世代が新しいアイデアをもって大きく牽引していかなければならないことを感じました。祝賀パーティーの最後の木村会長の挨拶の中で、阪大のスタッフ全員が登壇させてもらい、1枚の写真に納まることができました。センターにとっては40年次の見直しが巡ってきます。その時にまた新しい熱測定の展開が開けるように努力を継続していく必要があることを感じたイベントでした。

今回の式典の企画、準備、運営を進めて頂いた皆様とセンターのOBの皆様、木村会長、吉田式典実行委員長をはじめ、実行委員、幹事、会員の先生方、熱測定学会事務局の土信田さんにあらためまして感謝申し上げます。

(中澤康浩)



会場となった大阪大学会館入口付近には案内のパネルが設置された



祝賀会につくられた記念のケーキ



式典会場での記念撮影（実行委員会）